

# HARMONIA+

ハルモニアプラス

第29号  
2024.3

## 特集「人と地域をつなぐ一里塚」



社会福祉法人ハルモニア

HARMONIA



澤田祐一

社会福祉法人ハルモニア理事長。アーティスト。島田市出身。ウエルビーアイジングな社会を目指す。「さんし」のオススメメニューはラーメン定食。

里塚のように、立ち寄つていただく場所になればいいなと思っているんです。実際、この前を徒步や自転車で通る人は多いですよね。

**太田(リ以下・太)** 東海道ということで、JR六合駅で降りてウォーキングしている人もよく見かけます。

**澤** 「さんじ」にも弥次喜多の絵の看板がありますよね。あの看板は今の時代を先駆けたといつてもいいコンセプトを表しているんじやないかと思うんです。今、国土交通省が「居心地が良く歩きたくなるまちづくり」を提唱していて、車で通りすぎるだけでなく、歩いたり自転車で通りかかることで、地域のいろいろを見つけようと進め

**太** 私の娘にも障がいがありますが、娘を取り巻く環境を見ていると、地域社会に福祉が根差していないのを実感します。私がいる阿知ヶ谷・東光寺地区にも、障がい者や高齢者がたくさんいらっしゃるのに、なかなか横つながりができていない。そんな状況を変えようと、3年前にふれあい祭りを始め

ています。車だと通り過ぎてしまふ場所にも歩くことで見つけるものがあつたり、立ち寄つて会話が生まれたり。「あります」もそんな存在になればと思つてします。

希薄になつたなかりを取り戻すには?

ました。もともと開催していた連動会をやめて、このイベントに変えたのには理由があります。もともと大きな理由であり、コンセプトでもあるのが「つながり」です。子どもと大人、高齢者がつながる。健常者と障がい者がつながる。そして地域と地域がつながる。4回を経て、阿知ケ谷・東光寺だけでなく他の地域も巻き込んで発展していく地域も巻き込んで発展していくべきないと考えています。

域のあり方を見直してみませんか」と話します。

澤 「ソーシャル・インクルージョン」という言葉があります。社会的包括という意味で、社会的弱者も含めたすべての人を取りこぼさないという概念です。当たり前ですが、地域とは誰のものでもなく、子どもも大人も、性別や職業も、障がいのあるなしも関係ない、みんながいる場所が地域であるはずなんですね。ただ、今はいろんなことが細かく分断され、みんなで地域を作つていく意識を持ちにくい時代になつていると感じます。誰のためでもない、でも全ての人が関わる地域をもう一度作つていくためには、「どんなこと」が必要でしょうか。



渡邊英勝さん

静岡福祉大学福祉心理  
学科教授・学科長。富士  
市出身。ソーシャルワーカー  
実習や演習を通して、地  
域福祉を担う専門家を育  
成する。



2023年7月にオープンした「あります」。農福連携や地域に開かれたコモンスペースを設け、地域とのつながりの拠点となることを目指しています。これから地域づくりに何が必要なのか、地域共生社会を作っていくために何が大切なのか、地域と「あります」とをつなぐ皆さんを招き、トークしました。

昨年7月  
OPEN!

東海道の一里塚は  
人が行き交う場所  
澤田(=以下、澤) 今日は

人が行き交う場所

「由緒ある場所である」と。上青島地区は旧東海道の街道筋で、当時の古い松並木も残っています。また、「」あたりは日本遺産「東海道駿州の旅」の西の玄関口に当たります。「」は「藤枝市と島田市の境団にあること」。そして最後に、「地域に開かれた場所である」と。「」で利用者さんたちが作業するだけではなく、地域の人にも開かれた場所でありたい。そういう目的も持っています。さて、このあたりは街道沿いでJRの線路沿いでもあり、道が交差して人が行き来する場所です。鈴木さんにお聞きたいのですが、鈴木さんは長年「そば処さん」を営みつつ、同時に地域活動を積極的に行っています。「あります」を立ち上げる際にもお世話になりましたが、このあたりはどういう地域でしょうか。

は地域の交通安全や子どもたちの見守り活動を続けています。記憶に残っているのは、東海道本線の線路で「こだま」の高速度走行実験が行われたこと。島田・藤枝駅間を走って、後に東海道新幹線につながりました。そしてもう一つが昭和57年、圃場整備の際に発掘された旧東海道の一里塚です。今はもう残っていませんが、直径20mぐらいいの小高い丘がありました。欅の木があり、旅人がその下で涼を取ったそうです。今の東海道は戸時代の東海道で、本来の東海道はこの先の青島小学校から山の方へ上つていったところです。かつては船溜まりだったと伝えられています。大勢の旅人が往来したんですね。



子どもたちが自由に出入りしたり、親が仕事で忙しくしているときは、お隣の人にお世話になったりしていました。今の時代、確かに便利になりましたが、人と人との関係性が希薄になってきてるようを感じるんですね。学生たちは「もう一度、今の世代がそのつながりを作つて、新しい家族や地

木さんも含めて、この地域の皆さんは積極的に声をかけてくださるなど、あたたかい方がたくさんいらっしゃいます。その魅力も含めて地域の可能性や、お互いを尊重し合う共助の部分を話題にしていくことが必要なのはと思います。大きなことだけでなく、自分のできる範囲の中で一歩ずつお互い知

「防災」です。私の住む地域にも支援者などの一人住まいの高齢者、一人では避難できない人がいて、災害が発生した時、助けが欲しいのに声を上げられないケースが想定されます。台風などの災害発生時には住民の皆様が一致協力して地域の情報を共有し、訓練していく。そういう防災の取り組みがい

地域の中で芽生えてくる気がする

ません。

## 全ての人のものとしての 地域づくり



鈴木幸男さん  
(そば食事処さんじ店主)

藤枝で親しまれる「そば食事処さんじ」店主。藤枝市出身。「一里山里昇会」役員。「ありす」立ち上げ時には地域とハルモニアのパイプ役も。

んです。事業所の活動を地域に発信していく以上に、私たちが利用者様と一緒に何らかの関係を見つけていくとともに、地域の中で広がるきっかけになるんじゃないかな。そのためにも「ありす」を開かれた場所にして、地域に知つていただけるように、私たちも地域を知る活動を地道に進めていければなと思います。

澤 先週、鈴木さんのお店にそばを食べに行った際、たまたま隣り合った方と会話しました。初対面ですが、私は生まれが島田で実家は農屋だったことを知つてくださつたので、不思議な縁を感じました。もしそこに足を運ばなければ、その方はお店のことを知つてくださつており、不思議な縁を感じました。私は地域とは単に制度で区切られたものではなく、人と人とのつながりや、周知されてきています。

増 藤枝市内で共生社会をテーマにしたとき、私たちが行つている福祉の仕事や取り組みは、「何となく知つていて」程度の認識にどぎまつています。ですから、わからぬ出向いたり、活動を通じて積極的に知るきっかけを広めていくことによって、利用者様や職員が顔見知りの地域住民であることの安心感が、

た人に「こんなにいい所がある」と発見してもらい、地元の人はそれを発展させる、という形が理想的かもしれません。一里塚にもまだまだ発展性があるはずです。今は通り過ぎてしまふ人が多くて、魅力を伝えるのが難しいかもしれません。それでも小さな声を取り残さない、声をかけやすく、困った時に「困った」と言える場を作つてくれば、お互いにとって暮らしやすい、あるいは安心感を持つる社会になつていくのかもしも

渡 これから高齢化が進み、誰もが孤独を感じるようになるかも知れません。それでも小さな声を取り残さない、声をかけやすく、困った時に「困った」と言える場を作つてくれば、もつと地域が発展していくのではないかと感じます。

澤 その通りです。「つながりの場」を作りながら、お互いどんな街にしたい、こんな街に住みたい、といった気持ちを共有し、足並みを揃えていける拠点を目指したのが「ありす」です。すべての人のものであり、誰のものでもない場所。ここで、みんなが手をたずさえて一緒に街を作つていくイメージであります。例えば、渡邊先生のもとにいる学生や、鈴木さんの「里山里昇会」の皆さん、太田さんが率先する阿知ヶ谷のお祭りに関わる人たち。地域を越えて行き来し、地域で何ができるかをオープンに語り合うことができるかをオーブンに語り合うことができたらいいですね。「あります」はその第一歩としての道じるべでありたい。今日初めて面識を持った皆さんに、それぞれの想いや活動を語つていただく時間を持ったことに感謝しつつ、これからもハルモニアとしてできることを考えています。

増田裕介  
社会福祉法人ハルモニア  
成人部門長。藤枝市出身。勤続16年で様々な地域連携プロジェクトに関わる。利用者の可能性を地域に広げるための活動を広く展開。趣味はサッカー。



増田裕介

以上にいところもなれば、悪いといふもないと思う。現状が一番いいと感じています。昔は「向こう三軒四隣」という言葉がありますが、今は三軒先にどんな人が住みたい」という思いをお聞かせください。

## 全ての人のものとしての 地域づくり

を待つてゐる人がトイレを借りたり、近所の子どもたちが「猫見せて」と顔を出したりしていまして。五右衛門風呂が壊れて使えなかつたこともありました。もちろん、そういう時代には戻れませんが、もう違う形で、気軽に助け合つたり暮らすことがありますし、そういう「う」と思つてします。そういう「う」と思つてます。

太 私は今「六合コミセン改革推進委員」として、阿知ヶ谷東光寺からその周辺の岸あたりまで含めた地域づくりに携わっています。従来の大きな組織というよりは、むつぶつして、地域とつながることで、改善することはあると思うのです。ある女性は家族を亡くしてから一人で家にこもつていましたが、地域の子どもの見守りに加わることで、少しづつ外に出られるようになりました。今では子どもたちからも信頼されています。そういう小さな積み重ねこそが、地域の発展につながるのではないかと感じます。

増 僕は今住んでる藤枝が好きです。ただ、社会の変化や、それに伴つてそれが抱えてしまつ生きづらさがあるのだと思ったら、立ち止まって話し合える場が必要であり、支え合いが生まれることこそ地域の魅力だと思つてます。今お話を伺ひながら、この地域はまだまだ大きな可能性を秘めていると感じました。同時に、昔から大切に受け継がれていることや文

澤 「ありす」の建物を造るにあたって、地域とつながることで、改善されることで、誰もが楽しく生きられる地域を目指していきたいです。

渡 今日、皆さんのお話を聞いていて、小学生の頃のことを思い出していました。両親が営む印刷所は、目の前にバス停があったので、バス



1年に一度、ミカンの摘果作業があります。みんなが楽しみにしている活動です。農園の皆さん、分かりやすいように、テープを張ってくれています。そのテープの上に出ている未熟なミカンを取つて、「ぱいっ」とします。これがとっても楽しい作業なんです。



事業所の中作業は100円均一商品のシール貼りや袋詰めなどの作業をいたいでやっています。作業を出来る限り細分化して、一人一人が出来る作業を切り出しています。あります自信のあるやりたい作業を自分で選んで行っています。



## ありすの活動

地域の皆様から支えられ  
つながりが活動となっています

ハルモニア就労支援B型事業所 ありす  
藤枝市上青島578-1



農園で採れた野菜の一部です。パプリカは赤・黄・黒・白といろいろな色を育てています。黄色くて丸いズッキーニやUFO型ズッキーニ、大きすぎる桜島大根など季節の野菜がいっぱいです。あります販売していますので是非お越しください。



5月の一大イベントのお茶摘みです！毎年藤枝市の光洋台で行っている作業です。葉を手摘みして茶葉のパック詰めまで行っています。地域の方々と一緒に行つて、親子で楽しめる活動の一つです。



皆で丁寧に育てた野菜を地域のお祭りで販売しています。ここで知り合つたお客様や、活動を通じてつながりが出来た方々がありすに足を運んでくれています。



太田豊之さん

島田市阿知ヶ谷町内会会長・六合コミセン改革推進委員。島田市出身。阿知ヶ谷ふれあい祭りを立ち上げるなど、地域活動に精力的に関わる。

化、普段のなげない日常が、社会情勢など様々な影響で当たり前で考えており、私たちから発信したり、今まで当たり前だと思っていました。

これまで、地域文化の再生というためにも、地域文化の再生ということもありました。もちろん、そ

ういう時代には戻れませんが、もう違う形で、気軽に助け合つたり暮らすことがありますし、そういう「う」と思つてます。

一面を私たちから発信したり、今まで当たり前だと思っていた。

日閑つてください。そして地域が、今よりもっと優しい街になつてい

く働きかけができる、わっとこの間に伝えていきます。

太 五右衛門風呂が壊れて使えなかつた日には、隣のお風呂を借りに行つたこともありました。もちろん、そ

ういう時代には戻れませんが、もう違う形で、気軽に助け合つたり暮らすことがありますし、そういう「う」と思つてます。

# 藤枝市上青島一里山地区の今昔

昭和 32 年  
当時の  
上青島一里山



松並木に挟まれた未舗装の東海道をバスが行く。モータリゼーションにより自動車の普及率が高まると舗装化が進む



昭和 57 年、土地改良工事の際に発掘調査が行われ、一里塚の跡地と思われる円形の石積みが見つかった

上青島  
一里塚の跡地

(画像提供：藤枝市郷土博物館)



現在



改良工事後の昭和 61 年 3 月に建てられた石碑には「一里山土地改良完成記念」と書いてある



松並木間に案内看板と石碑が立っている



茅葺き屋根の屋敷がある江戸時代の街道を思わせる風景



現在



等間隔に植えられた松並木が数多く残っている



弥次喜多の看板が目印の「そば食事処 さんし」

**そば食事処 さんし**

住所／藤枝市上青島666-1 営業時間／11:00~20:00  
定休日／木曜、第二水曜 TEL／054-646-0028

## 旧東海道・上青島一里塚のこと

江戸時代、幕府は江戸の日本橋を起点に全国の各街道に一里（約 4 km）ごとに一里塚を設置するように指令を出しました。旧東海道の上青島一里山地区にあった一里塚は日本橋から 51 里目（約 200 km）にあります。一里塚は、旅人が今どれくらい歩いたのかを確認するための目安で、旅の途中で旅人が休憩できる場所でもありました。一里塚の大きさは 5 間（約 9m）四方で、高さ 1 丈（約 1.7m）に土を盛り上げて作られ、一里塚の上には楓や松などの木が植えられていました。植えられた樹木の根は、塚の崩壊を防ぐ役割も持っていました。現在一里塚跡の記念碑がある場所は、昭和の初め頃まで街道南側およそ 20m の水田の中に土が盛り上がっていたそうで、昭和 57 年の発掘調査で塚の形を表す円形の石積みが見つかっています。

### 浮世絵に描かれた一里塚



「東海道五拾三次（狂歌入東海道）・庄野」  
(画像提供：慶應義塾)

前ページの「トーケス」でも語ったように、「ありす」がある上青島一里山には、かつて一里塚がありました。街道沿いにはその名残をいまも見つけることができます。

# えほんの世界

vol.4

いくつになっても読む人の心にそっと寄り添ってくれる絵本。親と子をつなぐ絵本、もう一度読みたい絵本、今読んで欲しい絵本を紹介するコーナー。今回は絵本作家ふくだのぞみさんの世界に迫ります。



## ふくだのぞみさん

富士宮市生まれ。保育士。イラストレーター。絵本作家。飯野和好氏のもとで絵本を学ぶ。第15回ピンポイント絵本コンペ最優秀賞受賞。山田塾イラストレーション講座を修了。現在、保育の傍ら広告・書籍・雑誌・新聞の挿絵の他、店舗・オフィスの壁画などで活動中。絵本作品に「ぼくの猫ちゃん」(タリーズコーヒーハヤパン株式会社)「こめたのみ一つけたシリーズ」(旅行読売出版社)がある。今年2月出版の「どっちどっちはいくえん」(こぐま社)他、複数出版予定。



### 絵本の海

私は幼稚園の頃から絵本が大好きで、将来の夢はいつの時も「絵本作家」でした。学生時代には絵本研究のゼミに入り、通学路にあった草薙の絵本屋さんに通って絵本への思いをあたためてきました。しかし新卒で幼稚園に勤務した時、初めて「子どもと絵本」の関係に触れると、絵本の見え方は大きく変わりました。

子どもたちは沢山の絵本に囲まれて、今その時に必要な絵本と、出会ったり別れたり、時に相棒のように携えたり。まるで絵本の海を自由に泳ぎ回るように絵本との関係を築いていました。絵本は子どもたちの心の育ちに不可欠なものだと悟ったのです。どうして今この絵本が人気なのか。どうして私が好きなこの絵本は今目の前の子どもには響かないのか。どうしてこの子はこの絵本を心の拠り所としているのか。そんな事を探りながら、今に至るまで保育・教育現場では目から鱗の日々を過ごしています。

イラストの仕事と二足の草鞋で歩むうちに、いよいよ憧れだった絵本出版のお話をいただきました。長い道のりでしたが、日々を共にする子どもたちを、もっともっと楽しませたいという思いが大きな原動力となり、ようやく踏み出せた一步です。改めて、子どもたちの暮らしに笑いと喜びを届けることを自分のテーマに据えて、制作を進めています。子どもたちにとって等身大の世界に「もしも」を見つけ、友達や家族とワクワクを共有する。私の絵本がそのきっかけになったら嬉しいです。

世の中には素晴らしい絵本が沢山あります。子どもたちは多様な物語や表現に触れて想像を広げる事で、相手を慮ったり自分を誇ったり、心の中に沢山の気づきや思いが芽生える事でしょう。そんな子どもたちの豊かな心が、未来の平和を築く小さな礎にならどんなに素敵だろうと想像せずにいられません。私も読者として、作者として、保育士として、これからも子どもたちと一緒に絵本の海を泳ぎ、様々な発見を楽しみたいと思います。

『どっちどっちはいくえん』  
ふくだのぞみ／作・絵  
(こぐま社)



昨年2月23日(ふじさん日)、市のイベントで読み語りとサイン会が行われました



訪れたファンにサインするふくださん  
(富士宮市内の書店にて)

富士宮市とのコラボで作った塗り絵

### ふくださんの一冊



ページが  
大きく開く  
仕掛け絵本

こめたのみ一つけた  
シリーズ第3弾

『こめたのしづおか  
み一つけた』

ふくだのぞみ／作・絵  
(旅行読売出版社)



「こめたシリーズに込める3つの願い」

●子どもたちに自分の住む地域を  
もっと好きになってほしい

●まだ知らない地域のことを知り  
興味や関心を広げてほしい

●家族旅行の思い出を作ってほしい

「こめたのみ一つけたシリーズ」は  
全国書店またはネットショップでも  
ご注文いただけます

Amazon



Instagram



詳細動画



青森・鳥取・和歌山版、  
特別版の富士宮市市制施行80周年記念絵本も発行しています。3月には  
福井版も刊行予定！





社会福祉法人 ハルモニア

## ご支援・ご協力ありがとうございます

(2023年1月1日～12月31日)

敬称略・順不同

### パン・お菓子・お惣菜・マスク販売

青島北地区交流センター  
青島第2自治会  
阿知ヶ谷東光寺自治会  
大洲ジュニア福祉  
NPO法人オールしづおかベストコミュニティ  
教育委員会高校教育課  
NPO法人きらりワークセンターかがやき  
(株)ジェイエイ大井川葬祭サービス  
志太の郷まつり実行委員会  
島田教会  
(福)心愛志太 藤枝第一心愛  
瀬戸公民館活動運営委員会  
全日本年金者組合静岡県藤枝支部  
東海ガス(株)  
東部コミュニティ推進協議会  
ともフェス実行委員会2023  
南風まつり実行委員会  
ハルモニア後援会  
藤枝市観光協会

藤枝市子ども会世話人連絡会  
(福)藤枝市社会福祉協議会  
藤枝市消費生活センター  
藤枝市民生委員・児童委員  
藤枝市役所  
藤枝商工会議所  
藤枝市立青島小学校  
藤枝市立総合病院  
藤枝MYFC  
学校法人藤枝学園  
藤枝明誠中学校・高等学校  
前島神社ボランティア「さくや会」  
(株)村上開明堂  
明治安田生命保険(相)  
ももいろフェスティバル実行委員会  
焼津市民生委員・児童委員  
NPO法人ワーカーズコープ 夢コープ  
その他ご協力くださいました皆様、  
ありがとうございました

### 施設外就労・施設外支援

(株)静環検査センター  
(株)村上開明堂  
レック(株)

合計3ヶ所

### 寄付

島田市民生委員児童委員協議会  
宮澤正子

### 古紙回収

藤枝市・島田市 累計133ヶ所

### 花ぼうろ

藤枝市・島田市・焼津市・吉田町

累計129ヶ所

### 地域の皆様とのひととき



#### 花ぼうろを作り続けて18年



ハルモニアでは、お祭りに彩りをそえる“花ぼうろ”を18年間作り続けています。数年前からはお祭りの縮小や自粛が相次ぎ、花ぼうろの伝統はこれからどうなるのだろうと不安な日々でしたが、想いを込めて花ぼうろを作り続けました。2023年は藤枝大祭りも開催され、町に活気と賑わいが戻りましたこと、心からお喜びを申し上げます。お祭りは人と人を結びつけ、支え合う町づくりに欠かせない大切な伝統行事です。是非これからも花ぼうろと共にお祭りを盛り上げさせて下さい。



ハルモニアの決算詳細、事業内容等は

ホームページで公開しています。

是非、ハルモニアホームページへお越しください。



<http://www.harmonia-fujieda.com>

#### ハルモニア+「可能性の種」について



「ハルモニア+(プラス)」は、サステナブルでウェルビーイングな社会を目指すためには「何が大切なか」を皆様と共に考える広報誌を目指しています。今号のテーマは「人と地域をつなぐ一里塚」。昨年7月に藤枝市上青島一里山地区に誕生した「就労支援B型事業あり事業所」の紹介と、誰もが暮らしやすいこれから地域づくりをテーマにしました。かつて旧東海道にあった「一里塚」を思い出し、これから私たちが目指す行き先と一緒に考えたいと思います。皆様の声を参考にしたいと思いますので、広報誌へのご意見・ご感想等はQRコードからお送り下さい。

